

一般社団法人 日本生態学会  
2021 年度 第 3 回通常理事会

日時：2021 年 12 月 11 日（土）13:00～17:05

場所：岐阜大学サテライトオフィス・オンライン（zoom）

出席者：

- ・ 理事会構成員（20 名・定足数 10 名以上）  
（理事）湯本貴和、宮下直、大塚俊之、佐々木雄大、本庄三恵、  
中川弥智子、久米篤、木村恵、内海俊介、東樹宏和、  
中野伸一、吉田丈人、西廣淳、近藤倫生、辻和希、鏡味麻衣子、  
北島薫、宮竹貴久、村岡裕由、和田直也
- ・ 監事：齊藤隆、永松大
- ・ オブザーバー：陶山佳久、永光輝義、小池文人、高橋佑磨
- ・ 事務局：鈴木晶子

4. 議事概要：

定足数 10 名を超える 20 名の理事の出席を得て理事会が成立したことを確認した後、定款第 42 条に従い湯本貴和会長を議長として議事を進行した。議事録署名者は、定款第 46 条に則り、湯本貴和会長、齊藤隆監事、永松大監事とし、議事録作成者は大塚俊之専務理事が担当することとした。

## 報告事項

1. 事務局報告（庶務・会計）

- ・ 資料 1 に基づいて大塚専務理事より、生態学琵琶湖賞授賞式（7 月 27 日、滋賀県庁公館）および受賞記念講演（8 月 7 日、オンライン）を行ったこと、東レ科学技術研究助成への生態学会員 2 名の推薦・申請を行った（9 月 21 日）こと、厚生労働省の地域別最低賃金の改定に伴い、生態学会パートタイム（アルバイト）基準の時給を変更した（10 月 1 日）こと等、庶務 5 件の報告があった
- ・ 資料 1、2021 年一般会計収支に基づいて本庄会計担当理事より、年会費収入・会誌発行費が予算並みであること、ESJ68 大会収支が黒字であったこと、コロナ感染症の影響で会議費・旅費交通費・各種委員会費の支出が少なくなっていること、単年度収支が黒字になりそうなこと等の報告があった。

2. Ecological Research 編集委員会報告

- ・ 資料 2 に基づいて陶山編集長より ER 論文賞の審査が進んでいること、編集状況について 2021 年投稿は前年並みで当初の予定通りとなりそうなこと、判定

種別の見直し、特集の出版・進捗と今後の企画について、ESJ69 フォーラムについて等の報告があった。

### 3. 日本生態学会誌編集委員会報告

- ・ 資料3に基づいて永光編集長より発行・編集状況、発行頻度と冊子購読料の変更、特集の企画方法の検討事項について報告があった。

### 4. 保全生態学研究編集委員会報告

- ・ 資料4に基づいて小池編集長より2021年刊行・編集状況について報告があった。

### 5. 出版状況報告

- ・ 久米出版担当理事より英文誌編集部について9名の体制で業務にあたっていること、ESJ69 フォーラムに向けてアンケートを実施していること、Wiley社よりOpen Access 出版費値上げの打診があった等の報告があった。

### 6. 大会準備状況報告 (ESJ69)

- ・ 資料5に基づいて高橋大会企画委員長よりESJ69大会準備について、プログラム編成が完成していること、現地参加希望者が550人ほどであること等の報告があった。
- ・ これまでの大会との変更点として、冒頭に開会挨拶・諸案内実施の予定、オンラインで前大会より多くの交流ができるように企画していること、受賞講演を会場数・日程等の制約のためやむなく3-4講演並行して行い、アーカイブで視聴可能にする予定にしている。
- ・ 受賞講演動画については大会参加以外の会員も視聴可とする、授賞者の希望があれば一般公開してもよいのではないかとの意見があった。

### 7. 各種委員会報告

#### <キャリア支援>

- ・ 資料6に基づいて木村理事より男女共同参画学協会連絡会関連でシンポジウムに参加したこと、大規模アンケートへの回答率が前回は上回ったこと、幹事学会WGの準備状況について報告があった。
- ・ ダイバーシティ宣言に向けての勉強会を開催した。
- ・ ESJ69準備状況について、フォーラム開催、キャリア支援情報ブース、相談室を設置すること、キャリア支援相談室を引き受けている企業へ大会参加無料とすることが報告された。

## <自然保護>

- ・ 資料 6 に基づいて和田理事より要望書の提出を行ったこと、委員改選に向けて打診中であること、自然再生エネルギータスクフォースのガイドラインについて今年度中の公開を目指して、現在目次案の作成と原稿執筆者の選定をほぼ終了し学会大会前までには完成させることが報告された。

## 8. 学会会議報告

- ・ 北島理事より学会会議について、改革が迫られていること、マスタープランがなくなるなど学会会議の意義や運営が変わっていったこと等が報告された。

## 9. 学会賞選考委員会報告

- ・ 資料 7 に基づいて辻理事より、学会賞選考委員会で生態学会賞推薦説明が不十分で推薦者に再提出を依頼することとなったため、推薦文に含めるべき内容をあらかじめ募集要項に含めたほうが良いということ、宮地賞と鈴木賞については女性からの応募がなく、今後女性研究者が応募しやすいよう働きかける必要があるとの提案があったことが報告された。

## 10. 次々期会長候補および次期代議員選挙報告

- ・ 資料 8 に基づいて大塚専務理事より選挙結果の報告があった。

## 11. INTECOL 報告

- ・ 資料 9 に基づいて村岡理事より、INTECOL の機能改善（2019 年ジュネーブ会議での活動計画の実施）および 2022 年ジュネーブ大会開催に向けた検討および作業等を実施しているとの報告があった。

## 12. 共同利用・共同研究拠点の期末評価結果について

- ・ 資料 10 に基づいて中野理事より京都大学生態学研究センターの共同利用・共同研究拠点の認定があったことが報告された。
- ・ 湯本会長より生態学会からサポートレターを送付した 8 研究機関のうち 5 機関にて認定継続されたとの報告があった。

## 13. 新 Jeconet 開設準備報告

- ・ 資料 11 に基づいて村岡理事より生態学会が提供するメーリングリスト（新 Jeconet）についてシステム改良とテストのため運用開始予定が 12 月中旬になりそうなことが報告された。

#### 14. 生物科学学会連合報告

- ・ 宮下副会長より「研究評価に関するサンフランシスコ宣言」に生態学会として賛同したこと、および 12/18 に生科連の公開シンポが生物多様性の内容で行われることが報告された。

#### 15. 委員会・WG・TF について

- ・ 資料 12 に基づいて大塚専務理事より現在設置されている委員会・ワーキンググループ・タスクフォースについて説明があった。
- ・ 「野外安全管理委員会」「情報交流委員会」については専門委員会と改名することが提案された。
- ・ ワーキンググループ(検討部会)については専門委員会の下部組織の位置づけ、タスクフォースは会長が委嘱し各種委員会の横断的な検討を行う位置づけとしてはどうかと提案があった。これらの提案については次回理事会に審議できるよう準備する。

#### 16. その他

##### <データベース WG 報告>

- ・ 内海理事よりデータペーパーの処理の中間報告、費用の問題について具体的な報告を今年度中にできるよう検討を進めるとの報告があった。

##### <生態学会活動方針>

- ・ 資料 13 に基づいて湯本会長より生態学会活動方針(アジェンダ)を現状にあわせて更新する提案があり、1年ほど時間をかけて検討してはどうかとの意見があった。
- ・ アジェンダがあることで委員会活動の目標が立てやすい一方、これまで具体的な進捗状況を公表していく機会が少なかったこと、アジェンダは3年・5年等で定期的に内容を確認していく必要があるとの意見があり、継続して検討することとなった。

### 審議事項

#### 第1号議案 日本生態学会功労賞について

- ・ 湯本会長より今回功労賞候補者の推薦がなかったとの説明があり、第20回功労賞については「該当者なし」とすることが全会一致で承認された。

#### 第2号議案 委員の承認(ER編集委員・琵琶湖賞運営委員)

- ・ 資料 2 に基づいて陶山 ER 編集長より ER 編集委員の提案があり全会一致で承認された。
- ・ 資料 14 に基づいて湯本会長より琵琶湖賞運営委員の提案があり全会一致で承認された。

#### 第 3 号議案 生態学会英文誌出版 WG の設置について

- ・ 資料 15 に基づいて湯本会長より提案があり、名称は「生態学英文誌出版タスクフォース」とし、委員・任期等は提案通り全会一致で承認された。

#### 第 4 号議案 個人情報保護方針の改訂について

- ・ 資料 16 に基づいて佐々木庶務担当理事より個人情報保護方針改訂案の説明があり全会一致で承認された。
- ・ 「4. 個人情報の保持期間及び消去について」の最後の文言について意見があり「ただし、相応の理由により、要請に沿えない場合があります。」とした。個人情報保護方針については学会サイト「定款・規則」や「Jeconet」ページからも閲覧できるようにする。

#### 第 5 号議案 生態学会大会イベントにおける CPD 単位発行について

- ・ 資料 6 に基づいて木村理事より説明があり、ESJ69 にて建設コンサルタンツ協会の CPD 単位の発行をキャリア支援委員会が主体的に進めることが全会一致で承認された。

#### その他

- ・ 学会財政の繰越金が増加していることについて齊藤監事より、今後学会としてどのような事業を行うか検討する必要があるとの意見があった。

閉会：以上の議事を終え、17 時 5 分に閉会した。

上記の決議を明確にするため、会長、監事がこれに記名押印する。

2021 年 12 月 11 日

会 長 : 湯本 貴和 ㊟

監 事 : 齊藤 隆 ㊟

永松 大 ㊟